

京葉ガス柔道部が全日本実業柔道団体で準優勝

—平成6年以来、18年ぶり—

第62回全日本実業柔道団体対抗大会が6月2日と3日の両日、岩手県北上総合体育館で開催され、京葉ガス柔道部は、男子1部と3部に出場し、“実業柔道団体日本一”の座を懸けて争う1部で18年ぶりの準優勝に輝きました。



準優勝の当社チーム＝6月3日、岩手県北上総合体育館で

6月3日、「厚生労働大臣杯争奪 第62回全日本実業柔道団体対抗大会」で実業団柔道の頂点を争う男子1部に12チームが出場し、当社チームは平成6年の第44回大会以来となる準優勝に輝きました。

初戦（対東芝B）を5－0で勝ち上がると、続く2回戦は新日本製鐵が相手です。昨年まで2連覇するなど屈指の強豪チームとの対戦は、次鋒戦を終えた時点で0－1の劣勢に立つものの、中堅戦で花本選手が背負い投げで一本勝ちを収め同点に迫りました。副将・上川選手は優位に試合を進めて相手選手に2回の指導が与えられ、有効勝ちでチームは逆転。大将戦で河原選手が拮抗（きっこう）した試合運びのまま引き分けに持ち込み、当社チームが2－1で接戦を制しました。

続く準決勝（対ALSOK）では5人が戦って2－2の同点となり、代表戦による勝敗を次鋒で一本勝ちを収めた上川選手に託しました。上川選手は開始1分4秒、払腰で一本を決め、当社チームが18年ぶりとなる決勝進出を果たしました。

決勝戦（対旭化成A）は0－4で敗れ、準優勝となりました。

大会終了後、4戦に出場し3勝した花本選手が優秀選手として表彰され、2日の3部（出場51チーム）で戦った当社チームはベスト8となり来年の2部昇格を決めました。

